

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	必修
担当教員			
小林廣美・掛橋千賀子			
添付ファイル			

授業概要	看護実践を効果的に導くために、看護における理論の重要性を理解し、看護で活用されている諸理論とその変遷及び理論の構成について学修する。また看護理論を基に実践における看護現象との関連について深く考察する。とくにケアリング理論を中心に教育・実践における意義について探究する。その上で、看護理論を看護実践・教育・研究に実際に活かす方法を具体的に考える。また、科学的根拠に基づく実践（EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に意義を見いだすことの人材育成に必要な科目として看護理論と実践を提供するとともに、EBPの根拠としてすでに活用されている看護学、関連学問領域の理論・主要概念への理解を深める。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践の基盤となる看護理論の特徴と機能Ⅰ 小林 歴史的推移・理論家について 2. 看護実践の基盤となる看護理論の特徴と機能Ⅱ 小林 看護理論の精読 3. 看護実践の基盤となる看護理論の特徴と機能Ⅲ 小林 看護理論の精読 発表 討議 4. 看護理論を活用した看護研究Ⅰ 小林 論文のクリティーク 5. 看護理論を活用した看護研究Ⅱ 小林 ケアリングと看護実践 6. 看護実践の基礎となる関連学問領域の理論の特徴と機能Ⅰ 小林 論文のクリティーク 7. 看護実践の基礎となる関連学問領域の理論の特徴と機能Ⅱ 小林 ケアリング理論 8. 看護実践の基礎となる関連学問領域の理論の特徴と機能Ⅲ 小林 9. 関連学問領域の理論を活用した看護学研究Ⅰ 掛橋 研究論文の選択・精読 10. 関連学問領域の理論を活用した看護学研究Ⅱ 掛橋 発表・討議 11. 理論に基づく看護実践上の問題解決Ⅰ 掛橋 問題の明確化 看護実践において現実に直面した課題を看護理論に基づき抽象化し解釈する 12. 理論に基づく看護実践上の問題解決Ⅱ 掛橋 解決困難ケースの検討 13. 理論に基づく看護実践上の問題解決Ⅲ 掛橋 解決困難ケースのプロセスレコードで検討 14. 理論に基づく看護実践上の問題解決Ⅳ 掛橋 分析結果の発表 解決方法と評価 15. 理論に基づく看護実践上の問題解決Ⅴ 掛橋 最終まとめ・討議 		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 看護実践上の問題解決に活用可能な理論の特徴が理解できる。 (2) 既存の理論・概念を用いて看護実践上の問題・課題を明らかにすることができる。 		
授業外学修			
教科書	筒井真優美 看護理論家の業績と理論評価 医学書院		
参考書	ヘソック スージーキム著 上鶴重美訳 看護学における理論思考の本質 日本看護協会出版会 ジャクリーン フォセット 訳太田喜久子他著 看護理論の分析と評価 廣川書店		
評価方法	到達目標 (1) (2) に対して、レポート50%、発表・討議 50%で評価する。		
オフィスアワー			
メッセージ			
授業形態	遠隔授業および対面授業併用		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	必修
担当教員			
山口 三重子			
添付ファイル			

授業概要	倫理学を基盤として、看護における生命倫理の概念を概観するとともに、倫理規範、倫理理論、倫理原則、看護実践、看護管理、研究上の倫理課題および倫理的問題の解決法等を探究する。加えて、看護の倫理的課題の解決を通して倫理的判断能力を養う。さらに、人間の尊厳を守る患者の権利擁護者である看護専門職者としてより高度な倫理的感受性と思考力を獲得し、最善の努力をする看護専門職として自律する能力を探究する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業導入・生命倫理発展の歴史 2. 生命倫理・看護倫理の基礎（1） 価値形成と価値の対立に関する発表・討議および探究 3. 生命倫理・看護倫理の基礎（2） 倫理理論に関する発表・討議および探究 4. 生命倫理・看護倫理の基礎（3） 看護実践上の倫理的概念に関する発表・討議および探究 5. 生命倫理・看護倫理の基礎（4） 看護における倫理的行動の基準に関する発表・討議および探究 6. 生命倫理・看護倫理の基礎（5） 看護実践における倫理的分析と倫理的意思決定に関する発表・討議および探究 7. 看護師の倫理的責任（1） 健康の増進に関する事例の発表・討議および探究 8. 看護師の倫理的責任（2） 疾病の予防に関する事例の発表・討議および探究 9. 看護師の倫理的責任（3） 健康の回復に関する事例の発表・討議および探究 10. 看護師の倫理的責任（4） 苦痛の緩和に関する事例の発表・討議および探究 11. 看護実践への倫理の応用（1） 看護師と人々に関する事例の発表・討議および探究 12. 看護実践への倫理の応用（2） 看護師と実践に関する事例の発表・討議および探究 13. 看護実践への倫理の応用（3） 看護師と看護専門職に関する事例の発表・討議および探究 14. 看護実践への倫理の応用（4） 看護師と協働者に関する事例の発表・討議および探究 15. 倫理的ジレンマの解決に向けての全体討議
到達目標	<p>(1) 倫理理論や倫理原則によって個々の判断や実践は正当化され弁護されることを踏まえ、看護実践への活用を考察することができる。</p> <p>(2) 人間の尊厳、患者の権利を踏まえ看護における倫理規範について自分の言葉で考察し、看護実践への活用を論じることができる。</p> <p>(3) 倫理的意思決定のプロセスを通して看護師が直面する倫理的ジレンマを具体的に分析でき、 解決策に向けてチーム医療の一員として行動を提案できる。</p> <p>(4) 看護専門職者として倫理的感受性を磨き倫理的判断の解決を導き出し、自律した倫理的判断能力と患者の権利擁護者となる能力を獲得できる。</p>
授業外学修	
教科書	サラT. フライ メガン-ジェーン・ジョンストン著 片田範子 山本あい子訳：看護実践の倫理【第3版】倫理的意思決定のためのガイド
参考書	必要時適宜紹介する
評価方法	レポート50%、発表・討議 50%で評価する。
オフィスアワー	

メッセージ	
授業形態	遠隔授業および対面授業併用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	必修
担当教員			
森崎直子・柳 修平・鈴木千絵子			
添付ファイル			

授業概要	高度な看護実践を展開するために、人々の健康生活に関する重要な課題を見出し、解決へ導くための研究方法について学修する。信頼性、妥当性のある解決策を得るために、研究のデザインやプロセス、データの統計的解析法など科学的・系統的に課題を検討する手法を修得する。また、看護実践に活用し得る文献を適切に読み解き、看護実践の開発に活用できる力を身につける。加えて、関連専門職者に効果的に研究成果を公表するための方法を学修する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 鈴木 看護学研究の特殊性と研究的思考、課題発掘 2. 鈴木 看護実践者・看護研究者としての倫理と責務、研究対象者の環境理解 3. 鈴木 研究文献のクリティークの方法、意義、視点 4. 鈴木 看護研究文献のクリティークの実際 5. 鈴木 看護研究論文におけるシステマティック・レビュー 6. 鈴木 質的研究について 7. 柳 量的測定方法の道具と技術 8. 柳 数学的論証 9. 柳 統計学の基礎数学 10. 柳 推定と仮説検定 11. 柳 データ構造を分析する多変量解析の基礎 12. 森崎 文献検索と文献研究 13. 森崎 抄録の作成方法と研究成果の公表法 14. 森崎 看護研究論文の構成と執筆ルール 15. 森崎 研究倫理審査の手順
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 看護研究のプロセスを理解し、妥当性のある結果を得るための手法と手順が修得できる。 (2) 文献を適切に読み解き、看護実践の開発に活用できる力を修得できる。 (3) 看護実践者及び研究者としての倫理的配慮の方法を修得できる。 (4) データを統計的解析法を用いて分析する技能が修得できる。 (5) 関連専門職者に研究成果を公表する方法が修得できる。
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・各コマの授業計画に沿って事前に学修し、発表や討議に向けて準備する (30時間) ・研究課題や研究方法を検討し、研究計画を考究する (30時間)
教科書	適宜紹介する。
参考書	デニス・F・ポーリット著、近藤潤子訳 看護研究 原理と方法 (第2版) 医学書院 舟島なをみ著 看護教育研究－発見・創造・証明の過程 (第2版) 医学書院 江藤裕之、前田樹海、田中健彦訳 APA論文作成マニュアル第2版 医学書院 メディカル・サイエンス・インターナショナル その他、適宜紹介する。
評価方法	学生に対する評価：到達目標 (1)～(5) に対して、レポート・発表・討議で総合的に評価する。
オフィスアワー	特に定めませんが事前に連絡してください。
メッセージ	探究心を持ち主体的に学修してください。

授業形態	遠隔授業および対面授業の併用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	必修
担当教員			
山口 三重子			
添付ファイル			

授業概要	教育における基本原理を基に、看護ケアの質を高めるために、看護の対象者を尊重した科学的な根拠に裏付けされたケアを提供するために必要な教育的機能・役割を探究する。また、教授制度、カリキュラム、3ポリシー、教育目的・目標、方法、評価、教授＝学修過程、シラバスを探究し、看護職者が持つ教育的機能・役割に関する知識と技術を修得する。さらに、役割推進強化のための他職種者との連携・協働における教育的役割を探究する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 看護教育の基本原理と教育思想者の歴史的変遷；該当文献の熟読と討議・発表 看護基礎教育制度と看護基礎教育カリキュラムの変遷と動向；該当文献の熟読と討議・発表 看護卒後教育と継続教育の変遷と動向；該当文献の熟読と討議・発表 リカレント教育；該当文献の熟読と討議・発表 教育理念と教育目的・目標、カリキュラム作成過程、3ポリシー；該当文献の熟読と討議・発表 看護教育内容と教育方法 受動的学修から能動的学修へ アクティブラーニングの推進、シラバスの意義 教授＝学修過程における評価 1 プレ評価、形成評価、ポスト評価、自己評価、他者評価 教授＝学修過程における評価 2 プレ評価、形成評価、ポスト評価、自己評価、他者評価 マイクロティーチングとルーブリック評価；当該文献の熟読と討議・発表 看護専門職者の生涯学習ニーズと教育的キャリア開発支援 社会の要請に応える看護教育の発展；該当文献の熟読と討議・発表 看護教育課程の概要と課題（他職種間の比較）；該当文献の熟読と討議・発表 看護学実習における教育方法；該当文献の熟読と討議・発表 看護学実習における教授＝学修活動（個人及びグループへの指導とカンファレンス） 医療の場における他職種者との連携・協働；該当文献の熟読と討議・発表 他職種者との連携力強化及び看護職者の役割推進における今後の課題
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 教育の基本原理と教育制度の変遷を探究し概説できる。 看護ケアの質向上のために必要な教育的機能・役割を説明できる。 3ポリシー、シラバスの必要性和意義について説明できる。 カリキュラム、教育理念、建学の精神、教育目的・目標、教授方略、評価、教授＝学修過程に関する知識と技術について説明できる。 看護職者が持つ教育的機能・役割、特に他職種者との連携と協働について説明できる。
授業外学修	
教科書	杉森みどり 舟島なをみ 看護教育学 第6版 医学書院
参考書	看護六法 新日本法規 平成29年版 勝又浜子 門脇豊子他 看護法令要覧平成29年度版 日本看護協会出版会 その他、適宜紹介する。
評価方法	レポート60%、発表・討議 40%で評価する。
オフィスアワー	

メッセージ	
授業形態	遠隔授業および対面授業併用

講義科目名称： 英書講読

授業コード： 1006Z

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	必修
担当教員			
高橋幸子			
添付ファイル			

授業概要	英語講読では、データベースを用いて自身の研究テーマに関連する英語文献を検索し、いくつかのabstractを読む。次にabstractを読んで選び出したfull research articleの精読を通して、英語文献の読解力と理解力を高める。毎回の発表で論文の概要を参加者と共有していく。
授業計画	<p>1 英語論文の検索方法（基本となる論文の参考文献を利用する）</p> <p>2 英語論文の検索方法（データベースにあるアブストラクトを利用する）</p> <p>3 英語論文の導入1</p> <p>4 英語論文の導入2</p> <p>5 英語論文の研究方法1</p> <p>6 英語論文の研究方法2</p> <p>7 英語論文の結果1</p> <p>8 英語論文の結果2</p> <p>9 英語論文の考察1</p> <p>10 英語論文の考察2</p> <p>11 クリティカルレビュー1</p> <p>12 クリティカルレビュー2</p> <p>13 リビューのまとめ方1</p> <p>14 リビューのまとめ方2</p> <p>15 論文レビューのプレゼンテーション</p>
到達目標	<p>(1) 質の高い看護学の論文を探し出せること。</p> <p>(2) 正確に、かつ、批判的な読み方ができること。</p>
授業外学修	
教科書	指定なし
参考書	American Psychological Association. (2020). Publication Manual of the American Psychological Association (Seventh Edition). Washington, D.C.: American Psychological Association.
評価方法	到達目標 (1) (2) に対して、授業への取り組み 50%、発表・討議 50%で評価する。
オフィスアワー	
メッセージ	
授業形態	遠隔授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員			
牛尾禮子			
添付ファイル			

授業概要	看護実践は、看護者と対象者との相互関係を通して行うために、よい人間関係を構築する必要がある。人間関係、対人関係に関する諸理論から、治療的意味を考察し、他者理解、自己理解を深め、対話能力を向上させる。さらに看護実践場面の再検討を行い、自己への探求を深め、人間関係におけるスキルや新しい視点の開発を探究する。さらに、人間関係を形成する能力を向上させることによってリーダーシップ力を発展させる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 援助的人間関係論の理解 人間関係のプロセスと共感の構造と過程 2. 人間関係の治療的意味 3. 治療的關係 最近の理論と実際 4. 關係的視点と關係的把握 自己理解と他者理解 5. 人間関係が治療することの理解 人間関係の二方向 カールロジャースの治療理論を中心に 6. 援助的人間関係の条件 援助者の基本的姿勢 7. 援助的人間関係の新しい視点について考究 8. 人間観と対人交流の技法としての対人援助 9. ケアの本質と看護にいかすカウンセリング 10. いかにして援助関係をつくるか 援助関係の特徴と問題点 11. プロセスレコードを用いた 自己探求と態度の修練の必要性 12. 対人關係論的アプローチと人間關係の再開拓 13. 文献や看護場面の事例から看護実践場面の再検討 I 事例の提示、グループ討議 14. 文献や看護場面事例から看護実践場面の再検討 II グループ討議 15. 文献や看護場面事例から看護実践場面の再検討 III 発表、総括
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 人間関係の諸理論から援助的人間関係の構造について探求できる。 (2) 対象者との人間関係を客観的に見つめることで、人間関係の治療的意味が考察できる。 (3) 援助者としてのスキルを体得し、援助的人間関係の新しい視点の開発を探究できる。
授業外学修	
教科書	人間関係の看護論 稲田八重子他 医学書院 患者の心に寄り添う聞き方・話し方ーケアに生かすコミュニケーション 太湯好子 人間関係の条件 大段智亮 医学書院
参考書	人間関係論 畠瀬稔 岩崎学術出版会 面接技術の人間学 大段智亮 医療心理学 大段智亮 朝倉書店
評価方法	到達目標 (1) ~ (3) に対して、発表・討議 50%、レポート50%で評価する。
オフィスアワー	
メッセージ	
授業形態	遠隔授業および対面授業併用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択
担当教員			
郷間英世・幸福秀和・藤野文代			
添付ファイル			

授業概要	看護職者として、プロフェッショナルキャリア形成を導くための、倫理的かつ高度な看護実践を提供するうえで、必要な知識に基づいたフィジカルアセスメント力のレベルアップを図る。さらに、科学的根拠に基づいた看護実践力向上のための身体面・心理社会面を含めた包括的なヘルスアセスメント及び社会資源活用に必要なニーズのアセスメントを学修し、看護課題に対する理論的思考を発展させる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 郷間 発達障害の理解と対応① 発達障害の理解のための行動特徴、DSM-5を用いた診断などについて概説する 2. 郷間 発達障害の理解と対応② 発達障害のある人々や家族の、生活上の困難、医学や心理的支援の方法などについて概説する 3. 郷間 発達障害の理解と対応③ 発達障害の原因について、最近の医学的知見、特にエピジェネティクスについて説明する。 4. 郷間 発達障害の理解と対応④ 発達障害への対応について、説明する。 5. 郷間 発達障害の理解と対応⑤ 発達障害について興味や関心のあることを調べ、発表する。 6. 幸福 ヘルスアセスメントの実際・循環器系（心音の聴取と抹消循環不全の評価） 循環器系について、特に心臓血管と末梢循環障害について行うが、リハビリテーションの視点で説明を行います。 7. 幸福 ヘルスアセスメントの実際・消化器系（腹部状態の評価） 腹部（消化器系）の状態について行うが、リハビリテーションの観点から、評価の意味を考えていきます。 腹部・体幹の評価に捉えて方として姿勢評価も伝えたいと考えています。 8. 幸福 ヘルスアセスメントの実際・中枢神経系（発達と情報処理の評価）療養環境アセスメントと生活支援 発達障害及び発達期障害における情報処理（視覚・聴覚・触覚）あるいは心理的・脳機能について、リハビリテーションの視点から説明していきます。 感覚処理として、ものづくりの体験も実施したいと考えています。 9. 幸福 ヘルスアセスメントの実際・脳神経系 I 基礎編（脳神経と機能・役割の評価） 脳機能について、そのありようを説明して、脳科学の観点とリハビリテーション的視点から、説明をしていきます。 10. 藤野 がん患者のトータルペインと症状緩和に向けたアセスメント、緩和ケアについて探求① 緩和ケアにおける包括的アセスメント (10～15藤野担当は、土曜日に3回に分けて行う予定) 11. 藤野 がん患者のトータルペインと症状緩和に向けたアセスメント、緩和ケアについて探求② 緩和ケアにおけるチーム医療、緩和ケア病棟入院の課題等の検討 12. 藤野 がん患者のトータルペインと症状緩和に向けたアセスメント、緩和ケアについて探求② がんサバイバーシップにおけるヘルスプロモーション、サバイバーのリハビリテーション、意思決定支援を探求する。 13. 藤野 非がん患者、慢性疾患患者の緩和ケア、セルフケア能力のアセスメントとその援助方法の探求① 14. 藤野 非がん患者、慢性疾患患者の緩和ケア、セルフケア能力のアセスメントとその援助方法の探求② 15. 藤野 院生のプレゼンテーション (1-2回)
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) プロフェッショナルキャリア形成を導くための卓越したヘルスアセスメント技法が修得できる。 (2) 倫理的かつ高度な看護実践を提供するうえでのヘルスアセスメントの科学的根拠が説明できる。 (3) アセスメント能力を通じて、身体面・心理社会面を包括した問題解決の方法が展開できる。
授業外学修	
教科書	<ol style="list-style-type: none"> ①フィジカルアセスメントガイドブック～目と手と耳でここまでわかる 第2版 山内豊明 医学書院 ②生命・生活の両面から捉える訪問看護アセスメント・プロトコル 山内豊明監修・岡本茂雄編集 中央法規出版
参考書	症状・徴候別アセスメントと看護ケア 医学芸社・山内豊明

評価方法	到達目標（1）～（3）に対して、発表・討議 60%、レポート 40%で評価する。
オフィスアワー	
メッセージ	
授業形態	遠隔授業および対面授業併用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択
担当教員			
菅野夏子・柳修平			
添付ファイル			

授業概要	人々がライフステージや健康レベルに応じて共通して持つ健康課題に対しての対策及び現行のケアシステムについて学修する。また、個人・家族・集団・地域を対象とした活動においては、専門職の連携を進めることが、医療保健福祉の法体系によって、位置づけられている。そこで、人々の健康課題の背景が複雑化し、課題が多岐にわたる現代においては、その課題の解決に向けて、看護職者が担う役割を明確にすることが求められている。したがって、この科目では、支援チームの中で、実践的なケアマネジメント能力やチームをコーディネートする能力を獲得する。また、今後、より重要視される人々の主体的参加を促す働きかけや、新たなケアシステムを構築する技法についても学修する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 柳 健康の概念の変遷とWHOの役割・健康課題の社会的背景とグローバル化 2. 柳 地域保健法および医療保健福祉関連の法体系とその活動・健康日本21（愛2次）までの概観 3. 柳 医療保険制度、医療計画・医療圏、医療保健福祉の連携の現状と自治体に及ぼす影響 4. 柳 地域医療の質と安全の確保・クリニカルパス 5. 柳 諸外国の地域ケアシステムの概念と実際・現代的課題 6. 柳 社会的諸要因からもたらされる健康課題としての健康格差・ケアシステムへの視点の確立 7. 菅野 地域ケアシステムの中での看護職者の役割とその活動の実際 8. 菅野 医療保健福祉分野での専門職種間の連携の現状(1)実際に経験した事例提供（発表）討議 I 9. 菅野 医療保健福祉分野での看護職種間の連携の現状(2)実際に経験した事例提供（発表）討議 II 10. 菅野 社会保障制度の変化の中で、看護職者に求められるケアマネジメント能力 11. 菅野 地域リハビリテーションの考え方と看護職者のコーディネート能力 12. 菅野 介護保険制度の概要と制度維持に向けての自治体の取り組み 13. 菅野 在宅療養におけるケア連携およびシステムが確立している難病事例の検討と討議 14. 柳 イギリスにおけるコミュニティナースが推進する地域包括ケアシステムの実際 15. 柳 考察した現状のケアシステムの課題と看護機能の有効活用に関する発表
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 現行の医療保健福祉の法体系やケアシステムについて説明できる。 (2) 医療保健福祉の他職種との連携の有効性について事例をあげて説明できる。 (3) ケアサポートチームにおける看護職者の役割について、述べることができる。 (4) 現行のケアシステムの課題と今後の方向性について自説を展開できる。
授業外学修	
教科書	看護学ジャーナル等、適宜使用する。
参考書	標準柳川洋、中村好一編 公衆衛生マニュアル 南山堂保健師講座② 地域看護技術 中村裕美子他 医学書院
評価方法	到達目標（1）～（4）に対して、レポート50%、討議30%、発表20%で評価する。
オフィスアワー	適宜、メールにてアポイントを取ること
メッセージ	

授業形態	遠隔授業および対面授業併用
------	---------------

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択
担当教員			
小林廣美 高谷嘉枝 小山恵美子			
添付ファイル			

授業概要	看護職者に求められる看護管理・看護マネジメントに関する理論を学び知識を深める。また、看護マネジメントに必要な能力として、医療制度、組織理論、経営理論および運営の仕方、リーダーシップ能力、情報管理について学修し、看護サービスの現状と課題を明らかにする。また、看護管理・看護マネジメントの課題について考察でき、問題解決方法を探究する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護マネジメントに必要な能力（知識や理論） 2. リーダーシップ能力の育成 3. 看護を取り巻く医療制度 4. 看護管理者に求められる情報管理 5. 効果的な管理過程の在り方 6. 看護管理の場における課題と取り組み 7. ケアの質保障に向けた継続教育と対象者の満足度 8. 看護管理者の倫理的意思決定 看護職の人材育成に関する制度と体制 9. 組織理論（1） 10. 組織理論（2） 11. 経営理論と運営の方法 12. 労働環境管理 13. 地域包括ケアシステムにおける看護管理者の役割（1） 14. 地域包括ケアシステムにおける看護管理者の役割（2） 15. 看護サービスの現状と課題；発表と討議
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 看護実践者としての看護と管理と看護マネジメントに必要な知識と能力について理解できる。 (2) 看護管理の果たす役割を説明できる。 (3) 看護サービスにおける現状と課題について明確にできる。
授業外学修	
教科書	初回授業時に説明します。
参考書	
評価方法	到達目標 発表・討議 50%、レポート50%で評価する。
オフィスアワー	
メッセージ	
授業形態	遠隔授業および対面授業併用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択
担当教員			
牛尾禮子 富岡美佳			
添付ファイル			

授業概要	現代家族は、形態面、機能面で多様であるが、何らかの問題が生じた時にまとまり助け合っていくのが家族である。しかしながら、今日、家族の危機がしばしば語られている。ここでは、家族の構造、発達、機能についての課題を明確にするとともに、家族の持つ病理について考究する。そこから家族が健康的なライフスタイルを獲得し、家族が直面している健康問題について家族が主体的に対応し、問題解決能力を高めるための支援方法について学修する。とくに障害があるという社会的に弱い立場にある児・者を家族構成員とする場合、家族が本来的に持っているエンパワメントやセルフ機能を高める支援について考究する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 富岡 人生において家族とは 2. 富岡 家族の歴史と家族看護の発展 3. 富岡 家族システム理論と家族アセスメント 4. 富岡 家族と社会 ①貧困・福祉 SDGsの視点から 5. 富岡 家族と社会 ②結婚・妊娠・出産とジェンダー 6. 富岡 家族と法：個人化と共同化 7. 富岡 家族と危機：看護者に求められる家族からの期待と家族に向き合うための準備 8. 牛尾 家族と子ども：家族と障害のある子ども 9. 牛尾 グループ討議Ⅰ：障害のある子どもを育てる家族支援（事例提示・熟読） 10. 牛尾 グループ討議Ⅱ：障害のある子どもを育てる家族支援（発表・討議） 11. 牛尾 家族と障害児・者：障害児・者をもつ家族構成員の関係性の変化 家族の再編成 12. 牛尾 家族と障害児・者：障害児・者をもつ家族ケア 13. 牛尾 グループ討議Ⅰ：家族看護実践事例を用いた発表・討議 14. 牛尾 グループ討議Ⅱ：家族支援における看護職者の役割と他職種者との協働 15. 牛尾 家族看護研究について：家族看護研究の動向 方法 まとめ方 研究の倫理的問題
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 家族の構造・機能・発達について理解できる (2) 現代家族の病理について説明できる (3) 家族が主体的に問題解決出来る支援について述べることができる
授業外学修	
教科書	適宜紹介する。
参考書	成山文夫 牛尾禮子他著 家族・育み・ケアリング 北樹出版 土居健朗著 甘えの構造 弘文堂 V・ハスラー著 家族のなかの障害児 ミネルヴァ書房 上野千鶴子著 変貌する家族5 家族の解体と再生 岩波書店
評価方法	到達目標 (1)～(3) に対して、レポート50%、発表・討議50%で評価する。
オフィスアワー	
メッセージ	

授業形態	遠隔授業および対面授業併用
------	---------------

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員			
小林 廣美 高谷嘉枝 小山恵美子			
添付ファイル			

授業概要	看護職者として質の向上を図る観点から、看護基礎教育・看護継続教育及び看護の対象者へより良い教育介入のために、その本質を探究し課題を見極める。また、看護ケア実践の場における他職種者との連携・協働を含めた看護支援方法や学生の自己教育力を育成する教授法について最新の知見や看護教育の動向などから考究する。さらに、看護管理の視点から、高度な看護実践のために必要な組織的、経営的な看護管理のあり方やマネジメント力について探求する。具体的には、病院・病棟管理を中心に、目標管理、研修体制、対象者への看護相談業務、看護学生への実習指導者の関わりなどの学修を深める。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護基礎教育・卒後教育・継続教育の概要 高谷 2. 自己の看護教育における課題発見と解決策の抽出 (発表・討議) 高谷 3. 看護教育方法(臨地実習)における課題と解決策、実践への活用 (発表・討議) 小林 4. 臨地実習における学生への教育介入と対象者への支援 小林 5. 対人関係形成能力育成のための教育内容の検討 小山 6. 医療系大学における連携・協働学習の方法 小山 7. 看護の場における他職種者との連携・協働 高谷 8. 看護職と保健医療福祉制度 高谷 9. 組織におけるリーダーシップ・リスクマネジメント 高谷 10. 病院及び病棟管理の課題と解決策の探究 (発表・討議) 高谷 11. 看護学生の臨地実習への支援 (発表・討議) 小山 12. 看護管理者の持つ教育的機能・役割 小山 13. 看護管理者のビジョンと求められる能力 小林 14. 看護サービスの質向上としくみの実践例 (発表・討議) 小林 15. 看護教育・看護管理特論の考察とまとめ (発表・討議) 小林
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 看護基礎教育・看護継続教育の課題が考察でき、具体的に説明できる。 (2) 病院・病棟における管理について学修し、管理のあり方を事例から具体的に述べることができる。
授業外学修	
教科書	杉森みど里 舟島なをみ 看護教育学 第5版 医学書院 2014 看護管理学特論に関しては、初回授業時に説明します。
参考書	
評価方法	到達目標 レポート50%、発表・討議 50%で評価する。
オフィスアワー	
メッセージ	
授業形態	遠隔授業および対面授業併用

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	4単位	選択
担当教員			
小林廣美 高谷嘉枝 小山恵美子			
添付ファイル			

授業概要	看護教育・看護管理学特論での学修を基にして、看護現象を研究的視点でとらえ、良い看護提供のための質向上の改善を考案する。そのためには看護教育・看護管理に関する研究の動向と最新の知識（情報）を踏まえ、自らの論理的思考を鍛え、リーダーシップを発揮するためのリフレクションや教育的関わりを振り返り再検討する。さらに、看護専門職者の新人職員から管理職までの育成方法や病院・病棟管理における看護提供方策を探索する。加えて、文献の精読・クリティークを通して、批判的思考能力を修得し、系統的に文献レビューする。さらに、学生自身の関心課題に沿った文献精読を重ね研究課題を焦点化する。現在の教育・管理実践現場での実情を把握するための臨地に赴き実習で実証的に検討するとともに、さらなる文献検討を重ねて研究の基盤を確かなものにし、特別研究へつなげる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護基礎教育の教育制度、看護教育カリキュラム 高谷 2. 看護学習者のニーズと学習者成長支援の把握に関する最新の知識（情報）高谷 3. 看護学習者の教授＝学修活動、教育方法の選択、看護の対象者の背景理解 高谷 4. 個別及びグループワークの活用による看護実践のリフレクション 高谷 5. 看護専門職者とは職種者との協働・連携が円滑化推進のための課題解決の考案 高谷 6. 看護専門職者育成のためのロールモデルの提示（自己の看護観・教育観の明確化）高谷 7. 医療経済・政策・制度がケア提供に及ぼす影響や効果 高谷 8. 看護実践の場を中心とした組織倫理・組織分析・組織管理、看護ケア提供システム 高谷 9. 看護実践の場における医療安全、リスクマネジメント、看護サービス提供体制、ケアの質保障 高谷 10. 対象者の課題明確化と解決のための多職種者との連携及びコーディネーターの役割推進 小林 11. 看護実践の場におけるチーム医療とリーダーシップの発揮及び必要な資源の活用 小林 12. 看護教育・看護管理に関する課題解決に向けた自己の課題の明確化；（討議・発表） 小山 13. 関心課題に沿った文献精読とクリティーク；発表と討議の深化（文献レビュー作成） 小山 14. 研究課題の焦点化；看護実践の場への研究成果の活用可能性の検討 高谷 15～29 臨地における実習（フィールドワーク）による研究課題の明確化と深化および探究 高谷 30. 臨地実習（フィールドワーク）において自己の課題を創造的に探究 高谷 31. 研究倫理審査項目の検討（研究の背景、研究目的、研究計画、研究方法、研究対象など）高谷 32. 研究倫理審査項目の検討（倫理的配慮と予測される研究結果と看護への寄与）の発表と討議 高谷 33. 研究計画案の検討と作成；発表・討議の深化 高谷 34. 焦点化した研究課題の再文献精読とクリティーク；発表・討議 高谷 35. 総括（演習～実習へと特別研究への積み上げ）：焦点化の討議発表 高谷

到達目標	(1) 看護教育・看護管理学に関する看護現象を探究し、看護教育・看護管理の課題を述べることができる。 (2) 学生自身の看護教育・看護管理実践に関する教育的・管理的機能と役割を説明することができる。 (3) 研究課題を焦点化し適切な研究方法を検討後、再焦点化を図り、考察的に探究できる。 (4) 臨地における実習により研究課題を明確にし、考察的に探究できる。
授業外学修	
教科書	随時紹介する。
参考書	適宜紹介する。
評価方法	到達目標 発表・討議50%、レポート50%、で評価する。
オフィスアワー	
メッセージ	
授業形態	遠隔授業および対面授業併用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	8単位	選択
担当教員			
小林廣美 高谷嘉枝 小山恵美子			
添付ファイル			

授業概要	看護教育・看護管理学分野では、特論、演習で学修したことを基に看護教育では、看護実践の場において、教育指導及び患者指導の質向上を図るために、看護基礎教育における教授内容と方法、臨地実習指導、連携教育などに焦点をあてる。看護管理では、看護実践質向上のために、医療安全、業務改善、看護職者の能力開発、看護職者の研修体制、学生への実習指導、看護の場におけるリスクマネジメント、など学生が設定した研究課題について、研究の背景、文献検討、研究目的、研究デザイン、具体的な研究方法、倫理的配慮などについて再度確認する。研究計画書に沿ってデータ収集、分析、解釈、考察を進め、論文として仕上げる。併せて、討議や発表をとおして、プレゼンテーションの技術を向上させるとともに分野の知識を深め、実践できる能力を身につける。
授業計画	<p>1～5 研究活動の継続；研究計画の再検討（背景、文献、目的、デザイン、方法）、研究倫理審査結果の確認</p> <p>6～20 研究活動の継続；研究フィールドの調整、対象者の選定、研究依頼の準備、研究データ収集</p> <p>21～25 研究活動の継続；データの整理、入力</p> <p>26～30 研究活動の継続；データの分析、評価</p> <p>31～40 研究活動の継続；結果の解釈、考察</p> <p>41～50 研究活動の継続；初稿論文作成</p> <p>51～55 研究活動の継続；論文の検討</p> <p>56～60 研究活動の継続；論文の修正</p>
到達目標	<p>(1) 研究計画に基づき研究活動が遂行できる。</p> <p>(2) 倫理的配慮に基づいた研究活動ができる。</p> <p>(3) 得られた結果を科学的に分析・考察できる。</p> <p>(4) 一貫性のある研究論文が作成できる。</p>
授業外学修	修士論文作成に向けて、必要な研究活動を行う。
教科書	デニス・F・ポーリット著 近藤潤子訳 看護研究 原理と方法（第2版） 医学書院 2010 舟島なをみ著 看護教育研究一発見・創造・証明の過程（第2版） 医学書院 2010
参考書	関連する海外文献等も含めて適宜紹介する。
評価方法	到達目標（1）～（4）を総合的に評価する。
オフィスアワー	特に定めませんが事前に連絡をしてください。
メッセージ	主体的、計画的に学修してください。
授業形態	遠隔授業および対面授業併用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員			
森崎直子・掛橋千賀子・西村伸子・鈴木千絵子・藤野文代・古川智恵			
添付ファイル			

授業概要	成人及び高齢者の個人やその家族の健康と対象理解を深め、健康課題を明らかにする。その上で、成人及び高齢者の個人やその家族に対する看護のあり方やQOLの維持向上に向けた専門的支援法を探究する。また、慢性疾患を有する人やがん治療を受ける人の病気への受け入れ過程や苦痛の緩和について考察し、セルフケア支援やマネジメントについて探究する。加えて、高齢者の健康課題やニーズを理解するとともに、認知症を有する人の課題と支援方法について考究する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 西村 慢性疾患を有する人の自己効力感 2. 西村 慢性疾患を有する人のコンプライアンスとアドヒアランス 3. 藤野 がん患者・非がん患者の緩和ケアと看護援助の実際 4. 藤野 患者の症状緩和、心理・社会的、スピリチュアルな痛みのアセスメント及び援助方法 5. 掛橋 がん医療の現在と看護 6. 掛橋 緩和医療の基本 7. 掛橋 苦痛緩和のための症状マネジメント 8. 古川 クリティカルケア看護におけるコンフォート 9. 古川 周術期患者のセルフケアと急性期リハビリテーション 10. 森崎 高齢者の身体的健康課題とニーズ 11. 森崎 高齢者の心理社会的健康課題とニーズ 12. 森崎 日本の今後の状況と高齢者支援 13. 鈴木 認知症を有する高齢者の療養支援 14. 鈴木 認知症の周辺症状（BPSD）に関する課題 15. 鈴木 認知症を有する高齢者の家族への支援
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 慢性疾患を有しながら生活する成人期の人への援助について、説明できる。 (2) がん患者が抱える全人的苦痛やニーズを理解し、包括的な支援について説明できる。 (3) 高齢者の健康課題とニーズを理解し、支援方法について説明できる。 (4) 認知症を有する高齢者とその療養支援について理解し、研究的思考を修得する。
授業外学修	各コマの授業内容に沿って事前に学修し、発表や討議に向けて準備する（60時間）
教科書	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。
評価方法	到達目標（1）～（4）に対して、発表、討議、レポートで総合的に評価する。
オフィスアワー	特に定めませんが事前に連絡してください。
メッセージ	探究心を持ち主体的に学修してください。
授業形態	遠隔授業および対面授業の併用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	4単位	選択
担当教員			
森崎直子・掛橋千賀子・西村伸子・鈴木千絵子・藤野文代・古川智恵			
添付ファイル			

授業概要	成人・高齢者看護学特論で学修した知識を基に、成人及び高齢者の健康課題に対して必要な理論や概念、実践を活用し、個人および家族に対する援助方法を探究する。成人及び高齢者看護における重要課題を見出し、その課題の要因と解決を導く方法について検討する。また、特別研究に向けて研究課題を焦点化し、課題に関する文献レビューを行い、現象の背景や動向から高度な看護実践への展開を考究する。さらに、研究課題を解決するために表現可能な研究方法、データ収集法、評価、分析、倫理的配慮などの研究プロセスについて、有効性や妥当性を考究する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 掛橋 成人及び高齢者の健康 2. 掛橋 成人及び高齢者の健康課題 3. 掛橋 成人及び高齢者の健康課題とニーズ 4. 掛橋 成人及び高齢者の看護研究 5. 掛橋 成人及び高齢者の看護研究の動向 6. 藤野 成人及び高齢者の健康課題と看護研究 7. 藤野 成人及び高齢者の健康課題と看護研究の動向 8. 藤野 成人及び高齢者の健康課題と研究課題 9. 藤野 成人及び高齢者の健康課題の検索 10. 藤野 成人及び高齢者の健康課題の焦点化 11. 西村 研究課題の決定 12. 西村 研究課題に関する文献検索 13. 西村 研究課題に関する背景 14. 西村 研究課題に関する意義の検討 15. 西村 研究課題に関する目的の検討 16. 古川 研究課題を解決する方法の検討 17. 古川 研究方法の検討 18. 古川 研究対象の検討 19. 古川 研究対象の選定方法 20. 古川 研究スケジュールと手続きの検討 21. 鈴木 研究方法の考察/有効性の検討 22. 鈴木 研究方法の考察/妥当性の検討

	23. 鈴木 研究方法の考察/実現性の検討
	24. 鈴木 研究課題と研究方法の整合性
	25. 鈴木 研究方法の決定
	26. 森崎 成人及び高齢者を対象とした研究に関する倫理的配慮
	27. 森崎 研究課題に関する倫理的配慮
	28. 森崎 研究倫理審査のプロセスと臨床研究実施に対する留意点
	29. 森崎 研究倫理審査書類の作成方法
	30. 森崎 研究計画書の整理
到達目標	(1) 成人・高齢者の健康課題を文献から見出すことができる。 (2) 成人・高齢者の健康課題を解決する具体的実践方法を考究できる。 (3) 成人・高齢者の健康課題を解決する方法を検討し、有効性及び妥当性を説明できる。 (4) 研究課題を明確化し、研究計画が立案できる
授業外学修	文献レビューを行い、研究計画書の立案に向けて、必要な研究プロセスを展開する。
教科書	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。
評価方法	到達目標(1)～(4)に対して、レポート、発表、討議で総合的に評価をする。
オフィスアワー	特に定めませんが事前に連絡をしてください。
メッセージ	主体的、計画的に学修してください。
授業形態	遠隔授業および対面授業の併用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	8単位	選択
担当教員			
森崎直子・掛橋千賀子・西村伸子・鈴木千絵子・藤野文代・古川智恵			
添付ファイル			

授業概要	成人・高齢者看護学分野では、特論、演習で学修したことを基に、成人及び高齢者の個人やその家族の健康課題・ニーズを明確にし、健康及びQOLの向上を目指し、科学的思考を基に研究に取り組む。学生が重要かつ必要と見出した研究課題について、研究の背景、文献検討、研究目的、研究デザイン、具体的な研究方法、倫理的配慮などについて再度確認する。研究計画書に沿ってデータ収集、分析、解釈、考察を進め、論文として仕上げる。併せて、討議や発表をとおして、プレゼンテーションの技術を向上させるとともに分野の知識を深め、実践できる能力を身につける。
授業計画	<p>1～5 研究活動の継続；研究計画の再検討（背景、文献、目的、デザイン、方法）、研究倫理審査結果の確認、研究計画書の完成</p> <p>6～20 研究活動の継続；研究フィールドの調整、対象者の選定、研究依頼の準備、研究データ収集</p> <p>21～25 研究活動の継続；データの整理、入力</p> <p>26～30 研究活動の継続；データの分析、評価</p> <p>31～40 研究活動の継続；結果の解釈、考察</p> <p>41～50 研究活動の継続；初稿論文作成</p> <p>51～55 研究活動の継続；論文の検討</p> <p>56～60 研究活動の継続；論文の修正</p>
到達目標	<p>(1) 研究計画に基づき研究活動が遂行できる。</p> <p>(2) 倫理的配慮に基づいた研究活動ができる。</p> <p>(3) 得られた結果を科学的に分析・考察できる。</p> <p>(4) 一貫性のある研究論文が作成できる。</p>
授業外学修	修士論文作成に向けて、必要な研究活動を行う。
教科書	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。
評価方法	到達目標（1）～（4）を総合的に評価する。
オフィスアワー	特に定めないが事前に連絡をしてください。
メッセージ	主体的、計画的に学修してください。
授業形態	遠隔授業および対面授業の併用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員			
山口三重子・牛尾禮子・郷間英世・幸福秀和・富岡美佳・二重佐知子			
添付ファイル			

授業概要	障害は種類や程度によって障害児・者や家族の生活は大きく違ってくる。ここでは、発達障害、心身障害研究について最近の動向や知見、障害の定義や病態などについて学修する。また、障害児・者の生活状況から問題・課題を見だし、健康生活やQOLを向上するためにはどのような支援が必要か、医学、看護、福祉、教育との連携などについて、関係文献の検討、分析を行い、支援の方向性を探究する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児医学の最近の進歩 障害の発生頻度と発生要因 郷間 2. 障害児の早期発見とその意義及び重症心身障害児・者の主病態 郷間 3. 特別支援学校における課題と問題 リハビリテーションと心理療法 郷間 4. 障害児・者看護の動向と最近の知見 牛尾 5. 障害児・者とその家族のニーズと生じやすい健康問題・課題 牛尾 6. QOLの向上のための医学・看護・福祉・教育の連携と支援システム 親の会の理念と活動 牛尾 7. 障害児・者の生活活動と評価及び支援と課題 幸福 8. 障害児・者に対する作業療法の役割と多職種との連携 幸福 9. 重症障害新生児の治療をめぐる判例からみる手続きの配慮の類型化 山口 10. 重症障害新生児の治療選択をめぐる親と医療者の問題と課題 山口 11. 重症障害新生児の治療決定過程における親の意思形成の問題と課題 山口 12. 生殖補助医療をめぐる倫理的課題と周産期医療 富岡 13. 障害のある子どもと母のアタッチメント 富岡 14. 障害児支援におけるの児童福祉法制定以前と制定後の比較 二重 15. 比較からみえた児童福祉法の今後に向けて 二重
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 発達障害、心身障害研究の最近の知見や動向がわかる (2) 心身障害児について理解できる (3) 障害児・者とその家族のニーズが理解できる (4) 障害児・者の健康生活やQOL向上のための支援方法が分かる
授業外学修	
教科書	適宜紹介する。
参考書	郷間英世編 発達障害医学の進歩－発達障害児の幼児期からの支援－ 診断と治療社 及川邦子監修、森秀子、牛尾禮子他著 発達に障害のある子どもの看護 メヂカルフレンド社
評価方法	到達目標 (1)～(4) に対して、レポート50%、発表・討議 50%で評価する。
オフィスアワー	
メッセージ	
授業形態	遠隔授業および対面授業併用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	4単位	選択
担当教員			
山口三重子・牛尾禮子・郷間英世・幸福秀和・富岡美佳・二重佐知子			
添付ファイル			

授業概要	障害児・者支援特論で学修した知識に基づいて、地域で生活する障害のある児・者とその家族心身の負担を軽減するための支援について、さまざまな文献・事例を用いながら検討し、倫理的問題についても追究し、社会の人々が障害についてもつくり組みやこれまでの経験から支援方法について考究する。加えて、彼らの生活上で生じる課題を明らかにしながら障害児やその家族に対する具体的支援方法、エビデンスや、研究方法について考究し、発展させる。さらにリハビリテーションや自立への支援についても学修する。また、この演習では、障害を持ちながら生きるということの意味について、学生個々の障害観と支援方法の確立を目指す。さらに、授業を受けながら自らの研究課題を明確化・焦点化する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児の出生前診断の現状と問題点 牛尾 2. 障害児の出生前診断の現状と問題点 討議・発表 まとめ 牛尾 3. 障害児と家族をめぐる差別と共生の視覚 文献からの討議 牛尾 4. 障害児と家族をめぐる差別と共生の視覚 発表・まとめ 牛尾 5. 障害児とその家族が地域生活上で生じる問題・課題 事例をもとに討議 牛尾 6. 障害児とその家族が地域生活上で生じる問題・課題・発表・まとめ 牛尾 7. 障害児・者の生活動作改善の方法 講義 幸福 8. 障害児・者の行動障害から生じる問題・課題 討議・発表 幸福 9. 重症心身障害児・者の日常生活活動を円滑にするための支援方法 講義 幸福 10. 重症心身障害児・者の安全な生活に対する作業療法士の役割と看護への応用 討議 幸福 11. 障害児・者のQOL向上に向けた生活基盤の整備 討議・発表 幸福 12. 重症心身障害児・者の療育的対応 運動 姿勢維持 講義 幸福 13. 重症心身障害児・者のための医療機関との連携 討議・発表 郷間 14. 重症心身障害児・者のための教育機関との連携 支援学級 支援学校を中心に 講義・討議 郷間 15. 重症心身障害児・者の療育的対応 呼吸障害 摂食障害 講義 郷間 16. 重症心身障害児・者の療育的対応 排泄障害 コミュニケーション障害 講義 郷間 17. 障害児者のよりよい生活を支えるために 入所機能 討議・発表 郷間 18. 障害児・者のよりよい生活を支えるために 在宅生活支援 討議 発表 郷間 19. 生命観—生命の始まりに関する医学的・法的視点—問題と課題 山口 20. 生命観—生命の始まりに関する医学的・法的視点—討議・発表 山口 21. 医療における子どもの自己決定の特質 問題と課題 山口 22. 医療における子どもの自己決定の特質 討議・発表

	山口 23. 重症心身障害児・者の治療決定過程の特質 課題 討議 発表 山口 24. 重症心身障害児・者のよりよい治療選択を支えるための支援 討議・発表 山口 25. 障害児・者と家族を支えるコミュニティ機能 富岡 26. 障害児・者の成長・発達に伴う健康教育のありかた 富岡 27. 障害児・者の発達支援 思春期の支援 討議・発表 富岡 28. 障害児・者の心理と支援 乳幼児期における支援 二重 29. 障害児・者の心理と支援 ADHD（注意欠陥／多動性障害）・自閉症 二重 30. 障害児・者の心理と支援 発表・まとめ 二重
到達目標	(1) 障害のある子どもの「いのち・生きる」ということについて深く考究し、支援者の役割がわかる。 (2) 障害のある子どもの生活動作の改善や自立についての支援方法が理解できる。 (3) 障害児やその家族への具体的支援が考究できる。 (4) 障害児・者や家族の生活について考究でき、研究課題の明確化・研究方法を発展させることができる。
授業外学修	
教科書	適宜紹介する。
参考書	いのちがあやつられるとき 毎日出版社情報出版 重症心身障害療育マニュアル 医歯薬出版 食べる機能の障害とリハビリテーション 医歯薬出版 医療的配慮を要する児童生徒の健康・安全の指導ハンドブック 日本肢体不自由児協会
評価方法	到達目標 (1)～(4) に対して、レポート50%、発表・討議 50%で評価する。
オフィスアワー	
メッセージ	
授業形態	遠隔授業および対面授業併用

講義科目名称： 障害児・者支援特別研究

授業コード： 3303Z

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	8単位	選択
担当教員			
山口三重子・牛尾禮子・郷間英世・幸福秀和・富岡美佳・二重佐知子			
添付ファイル			

授業概要	障害児・者支援分野では、特論、演習で学修したことを基に、重症心身障害児（者）や発達障害児に注目し、当事者や養育者の健康問題・課題、および生活状況を広く捉え、学生が設定した研究課題について、研究の背景、文献検討、研究目的、研究デザイン、具体的な研究方法、倫理的配慮などについて再度確認する。研究計画書に沿ってデータ収集、分析、解釈、考察を進め、論文として仕上げる。併せて、討議や発表をとおして、プレゼンテーションの技術を向上させるとともに分野の知識を深め、実践できる能力を身につける。
授業計画	<p>1～5 研究活動の継続；研究計画の再検討（背景、文献、目的、デザイン、方法）、研究倫理審査結果の確認、研究計画書の完成</p> <p>6～20 研究活動の継続；研究フィールドの調整、対象者の選定、研究依頼の準備、研究データ収集</p> <p>21～25 研究活動の継続；データの整理、入力</p> <p>26～30 研究活動の継続；データの分析、評価</p> <p>31～40 研究活動の継続；結果の解釈、考察</p> <p>41～50 研究活動の継続；初稿論文作成</p> <p>51～55 研究活動の継続；論文の検討</p> <p>56～60 研究活動の継続；論文の修正</p>
到達目標	<p>(1) 研究計画に基づき研究活動が遂行できる。</p> <p>(2) 倫理的配慮に基づいた研究活動ができる。</p> <p>(3) 得られた結果を科学的に分析・考察できる。</p> <p>(4) 一貫性のある研究論文が作成できる。</p>
授業外学修	修士論文作成に向けて、必要な研究活動を行う。
教科書	適宜紹介する。
参考書	関連する海外文献等も含めて適宜紹介する。
評価方法	到達目標（1）～（4）を総合的に評価する。
オフィスアワー	特に定めないが事前に連絡をしてください。
メッセージ	主体的、計画的に学修してください。
授業形態	遠隔授業および対面授業併用

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員			
柳修平・菅野夏子			
添付ファイル			

授業概要	国内外の地域看護活動の発展の歴史から、その概念や理論的根拠を学修したうえで、地域の人々の健康ニーズを包括的に把握し、発達段階や健康レベルに応じた看護実践方法を主体的に探究する。同時に、難病疾患や障害を持ちながら在宅で生活する人々や働く人々の健康課題の解決にあたって、必要とされるより高度で具体的なアプローチ方法、正確な情報収集、分析能力を獲得する。続いて、個人や家族、集団を対象とした看護活動において社会資源及び住民と協働し、組織化する方法を学修する。そこで、様々な健康レベルにある地域住民を支える地域看護活動および地域看護学の質の向上に寄与できる視点を確立し、今後のあり方を展望する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 柳 我が国の傷病対策を中心とした保健政策の歩みと健康概念の変遷 2. 菅野 プライマリヘルスケアおよびヘルスプロモーションの概念と活動の視点及び活動例 3. 柳 地域看護管理と地域包括ケアシステムの方向性と課題 4. 菅野 学修した内容を発展させた発表及び討議（発表・討議） 5. 柳 欧米における地域看護学発展の歴史の変遷と現代的課題 6. 菅野 感染症対策と地域支援事例：社会経済弱者と社会防衛の観点から－結核対策を中心に－ 7. 菅野 在宅療養生活を支えるための住環境改善支援の方法 8. 菅野 人工呼吸器を装着した在宅療養児・者及び家族への支援活動 9. 柳 学修した内容を発展させた発表及び討議（発表・討議） 10. 柳 産業保健活動の理念と健康管理体制 11. 柳 産業保健活動の計画・目標の立案と評価 12. 柳 労働安全衛生マネジメントシステムと産業看護職者の役割 13. 柳 人間工学の観点から考察する作業改善の進め方 14. 菅野 学修した内容を発展させた発表及び討議（発表・討議） 15. 菅野 地域看護学の今後の展望に関する発表（発表・討議）
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 地域看護の発展の歴史及び地域看護学の理論の変遷や代表的理論について説明できる。 (2) 様々な健康ニーズや課題に対するアプローチ方法について説明できる。 (3) 地域全体を視野に入れた個人・家族・集団を対象とした看護活動のあり方を説明できる。 (4) 社会資源や住民と協働する実現可能な地域看護活動計画を立案できる。
授業外学修	
教科書	適宜、看護学系ジャーナルなどから文献を使用する。
参考書	看護法令要覧 日本看護協会出版会 国民衛生の動向 厚生統計協会 国民の福祉の動向 厚生統計協会 公衆衛生マニュアル 南山堂 津村智恵子・上野昌江編 公衆衛生看護学 中央法規
評価方法	到達目標 (1)～(4) に対して、レポート50%、討議30%、発表20% で評価する。
オフィスアワー	
メッセージ	

授業形態

遠隔授業および対面授業併用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	4単位	選択
担当教員			
柳修平・菅野夏子			
添付ファイル			

授業概要	様々な場での地域看護実践活動から、基礎的な理論の適用と応用について学修する。地域の人々の潜在化した健康課題を顕在化し、個別支援からグループ支援、地域での保健活動へと推進する専門的技術を学修し、看護計画を立案できる能力を育成する。地域看護活動の行政、産業、医療機関などの活動の場における活動事例を検証する過程で、自らの課題を考察する。兵庫県中播磨圏域をフィールドとして用いて、健康課題を抽出、解決策を立案する過程の学修を通して、課題探求から解決にいたる実証的能力を養う。実習施設に出向き、地域看護技術的課題の探求と健康課題の抽出を行う。研究課題を焦点化し、課題に関わる専門知識の深化、関連知識の獲得を図る。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 柳 地域看護学分野における場の違いと地域看護管理 2. 柳 地域看護活動と地域包括ケアの今後の方向性 3. 柳 地域看護活動（感染症・難病）の実践事例の検討 4. 柳 地域住民の健康増進活動事例（中山間地域）の検討 5. 菅野 産業の場における健康増進活動事例の検討 6. 菅野 災害看護および災害国際ネットワーク活動事例の検討 7. 菅野 兵庫県の防災計画・災害予防対策・災害弱者避難計画 8. 菅野 地域診断の各種方法と活用の効果 9. 柳 地域診断の方法(1) コミュニティ・アズ・パートナーズモデルの活用 10. 柳 地域診断の方法(2) プリシード・プロシードモデルの活用 11. 菅野 兵庫県中播磨圏域の地域診断演習 (1)健康課題の明確化と解決策の考え方 12. 菅野 中播磨地域住民の特徴的な健康課題の抽出演習(2) 乳幼児期、学童期 13. 菅野 中播磨地域住民の特徴的な健康課題の抽出演習(3) 女性・母性、成年期、働く人 14. 菅野 中播磨地域住民の特徴的な健康課題の抽出演習(4) 高齢期、障害児・者 15. 菅野 中播磨圏域の健康課題とその解決策の発表および討議、レポート提出 16. 柳 実習の目標の検討:地域看護技術的課題の探究と関心のある健康課題の検討 17～26 行政（保健所・市町）、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、企業等で実習 27. 菅野・柳 実習結果（自らの課題・地域の健康課題およびその解決策）の発表・レポート提出 28. 菅野 最近の知見や動向に関する研究レビュー 29. 菅野 最近の知見や動向に関する先行研究のクリティーク 30. 菅野 学修成果の累積と先行研究のクリティークをとおして研究課題を焦点化する 31. 柳 自ら関心がある研究課題の文献レビュー

	<p>3 2. 柳 自ら関心がある研究課題の先行研究のクリティーク</p> <p>3 3. 柳 研究課題に関わる基本的、専門的知識の学修を進める</p> <p>3 4. 菅野・柳 研究課題にふさわしい研究方法の検討</p> <p>3 5. 菅野・柳 研究遂行の準備段階としての研究課題の焦点化および研究方法の仮決定</p>
到達目標	<p>(1) 地域看護活動の感染症対策から健康増進活動への変遷について説明できる。</p> <p>(2) 個別から集団、組織、地域全体を視野に入れた活動の発展および根拠について論述できる。</p> <p>(3) 実習の場で、自らの地域看護技術的課題の探求・健康課題の抽出、解決策の立案ができる。</p> <p>(4) 研究課題を焦点化し、研究遂行上必要な専門知識、関連知識が獲得できる。</p>
授業外学修	
教科書	<p>津村智恵子・上野昌江編 公衆衛生看護学 中央法規、ローレンスWグリーン・マーシャルWクロイター著 神馬征峰訳 実践ヘルスプロモーション 医学書院 2005、水嶋春朔著 地域診断の進め方根拠に基づく生活習慣病対策と評価 (第2版) 医学書院 2006</p>
参考書	<p>看護法令要覧 日本看護協会出版会、国民衛生の動向 厚生労働統計協会</p>
評価方法	<p>到達目標(1)(2)(3)(4)レポート50%、討議・発表50%</p>
オフィスアワー	
メッセージ	
授業形態	<p>遠隔授業および対面授業併用</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	8単位	選択
担当教員			
柳修平・菅野夏子			
添付ファイル			

授業概要	地域看護学分野では、特論、演習で学修したことを基に、地域看護学の活動の場や活動形態を広くとらえ、個人・家族・組織・地域全体に対する活動理論、医療保健福祉に関する法体系やケアシステム、地域看護活動のプロセス、地域看護技術、在宅看護活動、産業看護活動、災害看護活動などをテーマとする研究に関して、主体的に取り組む。学生が設定した研究課題について、研究の背景、文献検討、研究目的、研究デザイン、具体的な研究方法、倫理的配慮などについて再度確認する。研究計画書に沿ってデータ収集、分析、解釈、考察を進め、論文として仕上げる。併せて、討議や発表をとおして、プレゼンテーションの技術を向上させるとともに分野の知識を深め、実践できる能力を身につける。
授業計画	<p>1～5 研究活動の継続；研究計画の再検討（背景、文献、目的、デザイン、方法）、研究倫理審査結果の確認、研究計画書の完成</p> <p>6～20 研究活動の継続；研究フィールドの調整、対象者の選定、研究依頼の準備、研究データ収集</p> <p>21～25 研究活動の継続；データの整理、入力</p> <p>26～30 研究活動の継続；データの分析、評価</p> <p>31～40 研究活動の継続；結果の解釈、考察</p> <p>41～50 研究活動の継続；初稿論文作成</p> <p>51～55 研究活動の継続；論文の検討</p> <p>56～60 研究活動の継続；論文の修正</p>
到達目標	<p>(1) 研究計画に基づき研究活動が遂行できる。</p> <p>(2) 倫理的配慮に基づいた研究活動ができる。</p> <p>(3) 得られた結果を科学的に分析・考察できる。</p> <p>(4) 一貫性のある研究論文が作成できる。</p>
授業外学修	修士論文作成に向けて、必要な研究活動を行う。
教科書	デニス・F・ポーリット著 近藤潤子訳 看護研究 原理と方法 (第2版) 医学書院 2010 舟島なをみ著 看護教育研究一発見・創造・証明の過程 (第2版) 医学書院 2010
参考書	関連する海外文献等も含めて適宜紹介する。
評価方法	到達目標 (1)～(4) を総合的に評価する。
オフィスアワー	特に定めないが事前に連絡をしてください。
メッセージ	主体的、計画的に学修してください。
授業形態	遠隔授業および対面授業併用